

大学生のキャリア形成のプロセスに関する研究

—入学後の満足度とその背景—

杉原 敏彦, 高地 秀明 (広島大学)

広島大学の3年生全員を対象に実施した「大学生のキャリア形成のプロセスに関する調査」(2004) データを用いて、大学生生活及び大学教育の満足度が、大学生のキャリア形成のプロセスにおいてどのような位置を占めるか考察した。その結果、高校生活、大学入試及び大学生生活の満足度の推移においては、特に教員との関係が大きいこと、また、大学教育の満足度は、興味関心と適性、現在の専門分野の学び及び将来の展望の三者の一致・不一致と大きなかかわりがあることがわかった。

はじめに

大学入学後の生活に満足しているか否か、また、大学教育そのものに満足しているか否かという点が、大学生のキャリア形成のプロセスにおいて極めて重要な要素であることは想像に難くない。このような観点に立って、本稿第1節では、高校生活、大学入試及び大学生生活における満足度の推移に着目し、また、第2節では大学教育の満足度と学習や生活、進路に対する意識に着目し、それぞれの節で掲げる事項相互の関係やその背景を分析する。

1. 1 ねらい

「高校生活の満足度、大学入試における満足度及び大学生生活の満足度」のそれぞれ「高い/低い」が、大学生のキャリア形成のプロセスにどのように結びついているか考察したいと考えた。そのような関心のもとに、本節では、高校生活満足度及び大学志望順位がともに高いにもかかわらず大学生生活満足度が低い学生群について、そのような状況に至る要因は何か。同様に、高校生活満足度及び大学志望順位がともに低いにもかかわらず大学生生活満足度が高い学生群について、そのような状況に至る要因は何か考察する。

1. 2 調査データと考察の方法

(1) 調査データ

広島大学入学センターでは、2004年、広島大学3年生全員を対象に、高校から大学にかけてどのような経験をし、大学生生活の現状をどのように受け止め、今後の進路等をどのように考えているかアンケート調査を実施した。(報告書は、広島大学入学センター『大学生のキャリア形成のプロセスに関する研究』, 2006として刊行。)

本研究では、この調査データ(回収データ: 広島大学3年生1267人)をもとに考察する。

(2) 満足度の指標として用いるデータ

本研究で、高校生活満足度、大学志望順位及び大学生生活満足度の指標として用いるデータは、以下のとおりである。

① 高校生活満足度が高い/低い

「高校生活満足度が高い」とは、「高校生活全般について満足している」から肢選択で回答を求めた問に、「とてもあてはまる」及び「ややあてはまる」と回答したもの。

「高校生活満足度が低い」とは、同じ問に、「あまりあてはまらない」及び「まったくあてはまらない」と回答したもの。

② 大学入試における満足度が高い/低い＝大学志望順位が高い/低い

「大学志望順位が高い」とは、「広島大学志望順位」について、第1志望と回答したもの。

「大学志望順位が低い」とは、同じ間に、第2志望又は第3志望以下と回答したもの。

③ 大学満足度が高い/低い

「大学満足度が高い」とは、「専門的教育についての総合的な満足度」に関する間に、「とても満足している」及び「やや満足している」と回答したもの。

「大学満足度が低い」とは、同じ間に、「あまり満足していない」及び「まったく満足していない」と回答したもの。

(3) 考察の方法

高校生活満足度、大学志望順位及び大学生生活満足度について、個々の学生が行った自己評価(高い/低い)を類型化すると、表1のとおり8類型に分類できる。

この8類型の中で、特に注目したいのはII型とVII型である。すなわち、II型学生群は、高校生活満足度・大学志望順位がともに高いにもかかわらず、大学生生活満足度は低い状態にある。高校生活満足度・大学志望順位がともに高く、かつ大学満足度も高いI型と比較して、II型学生群の特質を見ることにする。

表1 高校生活満足度、大学進学順位及び大学生生活満足度に関する類型

類型	高校満足度	大学志望順位	大学満足度	合計 (%)
I	高	高	高	370 (50.5)
II	高	高	低	61 (8.3)
III	高	低	高	147 (20.1)
IV	高	低	低	44 (6.0)
V	低	高	高	59 (8.0)
VI	低	高	低	22 (3.0)
VII	低	低	高	17 (2.3)
VIII	低	低	低	13 (1.8)
合計	-	-	-	733 (100)

また、それと裏表の関係にあるVII型とVIII型にも注目する。

1.3 考察

(1) I型とII型の比較 一高校満足度・大学志望順位が高いにもかかわらず大学満足度が低い学生群の特質

① 「高校での生活」について

高校での生活に関して問うた各設問について、I型とII型とで差異が見られるのは、「高校時代の教員は全般的に親しみを感ずる」である。すなわち、I型とII型で各設問に対する「とてもあてはまる」と答えた者の割合を比較すると、表2のとおり、I型27.0%に対して、II型では47.5%に上っている。

表2 「高校での生活」に関するI型とII型の比較

条件	とてもあてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	
高校時代の教員は全般的に親しみを感ずる	I型	100 27.0%	155 41.9%	76 20.5%	34 9.2%	5 1.4%
	II型	29 47.5%	18 29.5%	7 11.5%	5 8.2%	2 3.3%

② 「大学入学以前の学習や経験等」について

大学入学以前の学習や経験等に関して問うた各設問について、I型とII型とで差異が見られるのは、「よくあてはまる」の回答者率に注目すると、「学校の授業で教員の教え方が良かった (I型:23.5%, II型:36.1%)」「アルバイトを熱心にした (I型:5.4%, II型:14.8%)」「家業や家の手伝いをした (I型:7.8%, II型:14.8%)」及び「部活動を熱心に行った (I型:48.1%, II型:32.8%)」である。このうち最初の3つの設問については、いずれもI型よりもII型の方が「よくあてはまる」とする者が多い。

③ 「教養的教育の満足度」等について

教養的教育及び専門的教育の満足度については、I型とII型の間で、表3のとおり差異

が生じている。特に、教養的教育に「まったく満足せず」と回答した者が、Ⅱ型（15.3%）でⅠ型（7.9%）の約2倍いる。

表3 「教養的教育及び専門的教育満足度」に関するⅠ型とⅡ型の比較

	条件	とても満足	やや満足	どちらでもない	あまり満足せず	まったく満足せず
教養的教育の満足度	Ⅰ型	11	108	117	103	29
		3.0%	29.3%	31.8%	28.0%	7.9%
Ⅱ型	1	10	18	21	9	
		1.7%	16.9%	30.5%	35.6%	15.3%
専門的教育の満足度	Ⅰ型	72	298	0	0	0
		19.5%	80.5%	0.0%	0.0%	0.0%
Ⅱ型	0	0	0	50	11	
		0.0%	0.0%	0.0%	82.0%	18.0%

④「大学での生活」について

大学での生活に関して問うた各設問について、Ⅰ型とⅡ型で差異が見られるのは、「教員との関係について」、「友人関係について」、「大学内の施設・設備・環境について」、「大学周辺の環境について」及び「趣味や遊びについて」である。

すなわち、表4のとおり、上記のいずれの設問についても「とても満足」と回答した者は、Ⅰ型がⅡ型の約2倍前後いる。このうち、Ⅰ型とⅡ型で特に顕著な差異が出ているのが「教員との関係について」である。

表4 「大学での生活」に関するⅠ型とⅡ型の比較

	条件	とても満足	やや満足	どちらでもない	あまり満足せず	まったく満足せず
教員との関係について	Ⅰ型	41	136	157	32	4
		11.1%	36.8%	42.4%	8.6%	1.1%
Ⅱ型	4	5	22	21	9	
		6.6%	8.2%	36.1%	34.4%	14.8%
友人関係について	Ⅰ型	195	149	17	6	3
		52.7%	40.3%	4.6%	1.6%	0.8%
Ⅱ型	17	27	11	6	0	
		27.9%	44.3%	18.0%	9.8%	0.0%
大学内の施設・設備・環境について	Ⅰ型	70	199	52	43	6
		18.9%	53.8%	14.1%	11.6%	1.6%
Ⅱ型	4	24	14	14	5	
		6.6%	39.3%	23.0%	23.0%	8.2%
大学周辺の環境について	Ⅰ型	47	143	87	71	22
		12.7%	38.6%	23.5%	19.2%	5.9%
Ⅱ型	3	18	9	18	13	
		4.9%	29.5%	14.8%	29.5%	21.3%
趣味や遊びについて	Ⅰ型	104	172	67	25	2
		28.1%	46.5%	18.1%	6.8%	0.5%
Ⅱ型	11	26	11	7	6	
		18.0%	42.6%	18.0%	11.5%	9.8%

すなわち、Ⅰ型では「とても満足」と「やや満足」の計が47.9%であるのに対して、Ⅱ型では14.8%にとどまっている。

⑤小括

高校生活満足度・大学志望順位がともに高いにもかかわらず、大学生生活満足度の低いⅡ型の学生群の特質を、Ⅰ型と比較してみると、一つには教員との関係が大きい。すなわち、Ⅱ型では、高校時代の教員は「全般的に親しみを感じ」、「学校の授業で教員の教え方が良かった」と感じているのが特徴的であるが、それに対して、大学での生活では「教員との関係」について満足していないとの回答が極めて顕著である。こうした傾向は、教養的教育の段階ですでに現れているようだ。また、大学生活についてⅡ型とⅠ型で異なるのは、「大学内の施設・設備・環境」「大学周辺の環境」「友人関係」と「趣味や遊び」についてⅡ型の満足度がⅠ型よりも低いことである。一方で大学入学以前の経験等について「アルバイト」「家業や家の手伝い」については、Ⅰ型よりもⅡ型の方が「よくあてはまる」割合が高いことには留意する必要がある。

(2)Ⅶ型とⅧ型の比較 一高校満足度・大学志望順位が低いにもかかわらず大学満足度が高い学生群の特質

Ⅶ型とⅧ型の二つの類型についても、①「高校での生活」、②「大学入学以前の学習や経験等」、③「教養的教育の満足度」等及び④「大学での生活」について分析を試みると、Ⅰ型とⅡ型の比較考察で得た知見を補強するような結果を得ることができた。

1.4 まとめ

Ⅰ型とⅡ型並びにⅦ型とⅧ型の比較考察を突き合わせると、次のようにまとめることができる。

- (1) 高校生活の満足度が高く、かつ第1志望で入学した者でも、そのうちの14.2%は3

年次の大学生生活満足度が低い。逆に、高校生活の満足度が低く、かつ第2志望以下で入学した者でも、そのうちの56.7%は3年次の大学生生活満足度は高い。

(2) 高校生活満足度・大学志望順位は高いのに、大学生生活満足度が低いという推移をたどる要因の一つには、教員との関係があると考えられる。すなわち、高校時代の教員について「全般的に親しみを感じ」、「学校の授業で教員の教え方が良かった」と感じるのに対して、大学での生活では「教員との関係」について満足していない場合が目立つ。こうした傾向は、教養的教育の段階ですでに現れているようだ。

(3) また、高校生活満足度・大学志望順位は低いのに、大学生生活満足度が高いという推移をたどるのも、やはり教員との関係が大きいものと考えられる。すなわち、高校生活満足度・大学志望順位・大学生生活満足度がすべて低い学生群では、高校時代の教員には「全般的に親しみを感じる」が大学での生活では「教員との関係」について満足していない、という傾向があるのに比べ、当該学生群の場合には、高校時代の教員に「全般的に親しみを感じる」割合が低く、大学での「教員との関係」を満足とする割合が高い。

(4) 大学生生活にかかわっては、「大学内の施設・設備・環境」、「大学周辺の環境」並びに「友人関係」、「趣味や遊び」、「サークル活動」についての満足度の高い/低い、大学生生活満足度の高い/低いと関連していると見られる。

また、大学生生活満足度の低いものの方が、大学入学以前に、「アルバイトを熱心にした」、「家業や家の手伝いをした」、「学校以外での趣味や

稽古ごとにうちこんだ」、「外国人や外国文化に接する機会があった」などの項目でむしろ活動的な経験をより多く持っている。

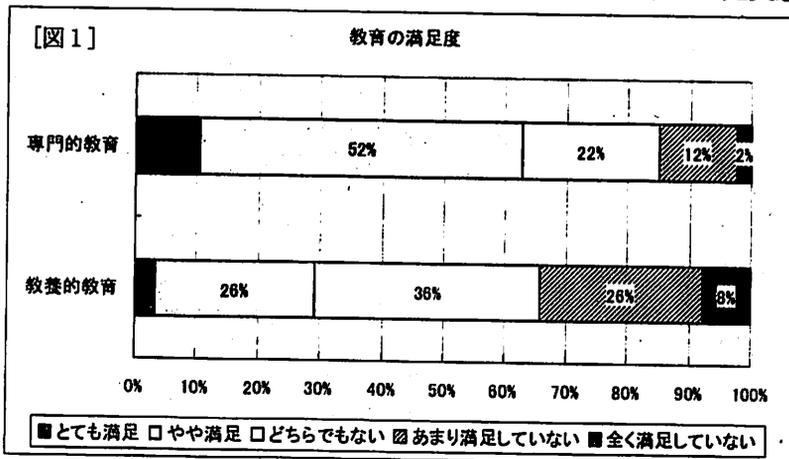
2. 1 ねらい

本節では、大学教育満足度に何が影響を与えているのかを検討するために、調査によって得られたデータのうち、「教養教育についての意識」、「専門教育についての意識」、「大学生活についての意識」、「受験動機」、「卒業後の展望」に注目し、それぞれのデータを教育満足度の高低の両グループに分けて比較考察した。

2. 2 考察

(1) 教養的教育満足度

教養的教育の満足度は、「とても満足+やや満足」と答えた学生の割合が29%、「あまり+全く満足していない」は34%と、「不満足」が「満足」を上回っている(図1)。この背景を「教養的教育についての意識」を問う設問から見ると、「楽しく学ぶことができた」や「実践的な知識が得られた」、「外国語能力が身に付いた」の間にYesと答えた割合は低い、一方で、「授業について行けた」、「成績は優である」の間にはYesの割合が高い。また、教育満足度の低いグループでは、「教養教育のレベルが低かった」にYesと答えているものは26%と比較的高い割合である。したがって、不満足者が多い要因としては、成績不振ではなく、勉強に魅力を感じたり、特定の能力を身に付けるといった学びの充実感



[表5]

専門的教育についての意識

		設問1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		11		設問の回答人数
学部	性格に合っている	興味関心に合っている	能力を生かすことができる	得意科目を生かせる	将来就きたい職業に就ける	専門を学んでいることを誇りに思う	選び直せるとしてもこの専門を選ぶ	転学部・転学科を考えたい	授業はついて行けている	レベルが低かった	レベルが高かった													
全体	421	35%	748	61%	235	19%	238	20%	500	41%	404	33%	360	30%	137	11%	491	40%	73	6%	259	21%	1218	
満足度の高いグループ																								
01総合科学	17	68%	22	88%	7	28%	4	16%	6	24%	11	44%	12	48%	1	4%	16	64%	3	12%	3	12%	25	
02文	30	56%	43	80%	8	15%	22	41%	3	6%	21	39%	27	50%	2	4%	23	43%	2	4%	17	31%	54	
03教育	152	58%	224	86%	97	37%	80	31%	161	62%	142	54%	118	45%	10	4%	159	61%	13	5%	39	15%	261	
04法	14	48%	20	69%	6	21%	6	21%	14	48%	16	55%	12	41%	3	10%	10	34%		0%	6	21%	29	
05経済	14	26%	30	57%	2	4%	3	6%	8	15%	13	25%	15	28%	5	9%	24	45%	5	9%	11	21%	53	
06理	15	38%	27	68%	10	25%	15	38%	9	23%	17	43%	10	25%	5	13%	14	35%	1	3%	10	25%	40	
07医	38	27%	96	72%	30	23%	13	10%	102	77%	63	47%	49	37%	2	2%	45	34%	1	1%	36	27%	133	
08歯	6	30%	10	50%	4	20%	3	15%	8	40%	8	30%	3	15%	2	10%	4	20%		0%	5	25%	20	
09工	33	36%	57	62%	15	16%	24	26%	41	45%	27	29%	25	27%	6	7%	29	32%	3	3%	28	30%	92	
10生物生産	20	39%	43	84%	7	14%	20	39%	21	41%	20	39%	24	47%	1	2%	30	59%	3	6%	6	12%	51	
全体	337	44%	572	75%	186	25%	190	25%	373	49%	338	44%	295	39%	37	5%	354	47%	31	4%	161	21%	758	
満足度の低いグループ																								
01総合科学	2	17%	8	67%	3	25%	3	25%		0%	1	8%	3	25%	2	17%	4	33%	1	8%		0%	12	
02文	3	27%	8	73%	2	18%	5	45%		0%	2	18%		0%	2	18%	5	45%	1	9%	2	18%	11	
03教育	6	21%	13	46%	3	11%	1	4%	11	39%	3	11%	3	11%	8	29%	14	50%	9	32%	2	7%	28	
04法	1	13%	1	13%		0%		0%	1	13%		0%		0%	5	63%	1	13%		0%	2	25%	8	
05経済	2	5%	2	5%	1	3%		0%	5	13%	1	3%	3	8%	12	31%	12	31%	5	13%	10	26%	39	
06理	1	5%	4	19%	1	5%	1	5%	2	10%	1	5%	1	5%	8	38%	3	14%		0%	8	38%	21	
07医	2	11%	3	17%		0%	1	6%	8	44%	2	11%	1	6%	6	33%	4	22%	4	22%	4	22%	18	
08歯		0%		0%		0%		0%		0%		0%		0%	1	50%	1	50%		0%		0%	2	
09工	4	11%	7	19%	3	8%	5	14%	9	25%	5	14%	2	6%	14	39%	4	11%	3	8%	10	28%	36	
10生物生産		0%	3	50%	1	17%	1	17%	2	33%		0%		0%	4	67%	3	50%	2	33%		0%	6	
全体	21	12%	49	27%	14	8%	17	9%	38	21%	15	8%	13	7%	62	34%	51	28%	25	14%	38	21%	181	

や達成感を実感することができなかったことが背景にあると考えられる。

(2) 専門的教育満足度

「専門的教育に満足している」と回答した学生の割合は、62%と全体に高い(図1)。本項では、満足度の背景を「専門的教育についての意識(表5)」から考察する。表5は回答者が11の各設問について、あてはまるものにチェックするものである。回答者全体から見ると、設問2の「自分の興味関心に合っている」が、「専門的教育の満足度」との関係の最も強い設問であると言える。各設問を満足度の高低の各グループ別に見ると以下ようになる。

①満足度の高いグループの特徴

満足度の高いグループは、自分の現在の進路選択について肯定的に捉えている割合が高い(表5)。特に、教育と医では「興味関心に合っている」「将来就きたい仕事に就ける」にYesの割合が高いことから、現在の専門分野、自分の適性、将来の展望の三者が一致している学生が多いと推測でき、これが満足度の大きな要因になっている。これはこの学部の特性として当然であると考えられる。

総合科学、文、生物生産は、自分の興味関心や適性と現在の専門分野が一致している学生は多いが、将来の進路との関係は必ずしも明確ではないことが窺える。

経済と歯は、現在の自分の進路選択について肯定的な回答をしている学生が少なく、特に経済は「将来就きたい仕事に就ける」の間にYesの割合が最も低い。また、職業と直結していると思われる歯学部学生が意外とこの設問のYesの割合が低く、この学部生の複雑な進路意識が窺える。すなわち、第一志望は医学部であり、不本意ながらこの学部に入學したという学生が少なからず存在しているのではないだろうか。

②満足度の低いグループの特徴

表5-設問2の「自分の興味関心に合っている」にYesと答えた割合は、満足度の高いグループの75%に対して、満足度の低いグループでは27%と大きな開きがある。また、「転学部・転学科を考えたい」にYesと答えた学生は満足度の高いグループでは5%であるが、満足度の低いグループでは34%にも達している(表5-設問8)。進路選択におけるミスマッチが生じていると推察できる。

また、満足度の低いグループのうち、「専門教

育のレベルが低い」の間に Yes と答えた割合は 14%で、満足グループの 4%と比較するとやや高い割合である（[表5]）。これは、教養的教育でも指摘したように、満足度の低い要因の一つとして教育の内容や質に物足りなさを感じていることがあると考えられる。

(3)「受験動機」と専門的教育満足度との関係

受験動機を問う設問について、専門的教育満足度の高いグループと低いグループで差異のあるものは、教育内容や教員・設備などの教育環境を挙げるものである。差異のあまり無い設問は、偏差値、受験科目、入試の形態といった受験条件に関する事などが挙げられる（表6）。

特に注目すべきは、「学びたい学部・学科・先生があったから」の設問については、満足度の高いグループでは 62%が Yes と答えているが、満足度の低いグループでは 38%にとどまっていることである。また、「なんとなく」の設問にも両グループの差異が明確になっている。

これらを考察すると、大学教育の満足度が高いグループには、受験動機において、大学で学びたい学問がしっかりと意識されており、志望大学の教育内容や資格取得、教員や施設等の学ぶ環境にも目を向けている者が多い。一方、大学教育の満足度が低いグループでは、偏差値な

どの受験上の条件や他者の勧めといった外的な要因に左右された学生が多い。

(4)「大学生生活についての意識」と専門的教育満足度との関係

「専門的教育の満足度」と「大学生生活についての意識」を問う各設問との相関を調べると、最も正の相関の強いものは教員との関係である。

専門的教育満足度の高いグループでは、人間関係に満足している割合が高く、教員との関係では 50%、友人関係には 91%が満足している。また、大学の施設・設備等の環境にも満足度が高い。一方、満足度の低いグループでは、教員との関係に満足している割合が 17%と極めて低く、満足していないと答えた割合が 43%と高い。職員との関係も満足していないと答えた割合が 50%と高い。

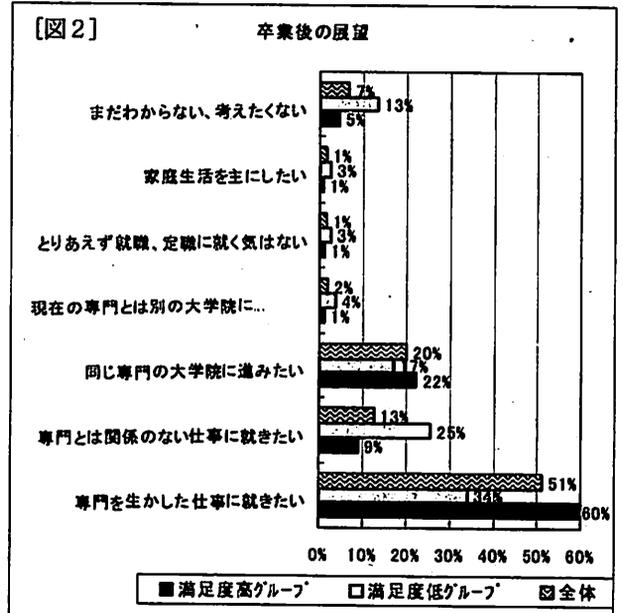
(5)「卒業後の展望」と専門的教育満足度との関係

卒業後の展望について、「現在の専門を生かした仕事に就きたいと考えている」と「同じ専門の大学院に進みたい」に回答した学生を合わせると、全体に高い割合である（図2）。「専門的教育満足度」との関係に注目すると、専門的教

[表6]

受験動機	専門的教育の満足度	
	高いグループ	低いグループ
①受験条件		
社会的評価・知名度・偏差値などが高いから	263 34.7%	66 37.6%
受験科目や出願書類、入試形態を考えて	304 40.1%	72 39.8%
②立地条件		
自宅から通いやすいから	118 15.3%	14 7.7%
キャンパス周辺の環境がいいから	99 13.0%	26 14.4%
授業料や入学後の生活費が安いから	206 27.1%	44 24.3%
③教育環境・教育内容		
教職員スタッフ・設備が優れている	80 10.5%	9 5.0%
将来の就職に有利だから	140 18.4%	30 16.6%
広島大学の伝統や雰囲気にあこがれて	77 10.1%	18 10.5%
大学の教育内容に惹かれたから	101 13.3%	10 5.5%
学びたい学部・学科・先生があったから	470 61.9%	98 53.7%
資格を取得したいから	130 17.1%	15 8.3%
④他者の勧め		
親・きょうだいの勧めで	115 15.2%	23 12.7%
高校の担任や進路指導担当に勧められて	183 24.1%	53 28.3%
塾・家庭教師・予備校に勧められて	34 4.5%	6 3.3%
広島大学出身の高校の先生に勧められて	67 8.8%	14 7.7%
⑤曖昧		
なんとなく	103 13.6%	48 26.5%

[図2]



育の満足度が高い学生は、自分の進路意識が明確で、多くが「現在の専門を生かしたい」と考えている一方で、満足度の低いグループでは、「専門と関係しない進路」と考えている学生の割合が高く、「まだ分からない」と進路選択を回避している者も多い。

2.3 まとめ

考察の結果、大学教育の満足度の背景となっている要因として次の点を指摘できる。

(1) 大学教育の満足度の高い学生は、その認識に至った背景・要因として、高校時代から今日までの、大学選択、大学教育での学びといった成長過程の中で、自分の興味関心と適性、現在の専門分野の学び、将来の展望の三者が一致してきたことが挙げられる。

(2) 受験動機において、進路意識が明確な学生は大学教育の満足度が高い。進路意識が明確な学生とは、学びたい学問がしっかりと意識されており、志望大学の教育内容や資格取得、教員や施設等の学ぶ環境にも目を向けて大学選択を行ったグループである。一方、高校時の大学選択において、偏差値などの受験上の条件や教師や他者に勧められた、等の外的な要因に左右された学生は、大学教育の満足度が低い。

(3) 進路選択のミスマッチ、すなわち、自分のやりたいことと現在の大学での学習・生活が乖離している学生が少なからず存在している。これは、自分の興味関心や学びたいことが曖昧なまま大学に入学したと いう要因と、入学してからの教員等との人間関係、教育内容や教育レベルについての不満などの要因が挙げられる。

おわりに

はじめに想定したとおり、大学生のキャリア形成のプロセスにおいて、大学生活・大学教育

の満足度は極めて重要な要素を占めている。第1節での分析により、高校生活、大学入試及び大学生生活の満足度の推移においては、特に教員との関係が大きいということがわかった。また、第2節での分析により、大学教育の満足度は、興味関心と適性、現在の専門分野の学び及び将来の展望の三者の一致・不一致と大きなかかわりがあることがわかった。

大学においては、入学後の満足度に関するこのような考察の示唆するところを十分に受け止め、大学生のキャリア形成の支援に当たることが大切である。

文献

- 広島大学入学センター,2006,『大学生のキャリア形成のプロセスに関する研究』
高等教育学力調査研究会,2002,『大学生の学習に対する意欲等に関する調査研究』
ベネッセ教育総研,2005,『学生満足度と大学教育の問題点』2004年度版